研究ノート

北九州市の金石文集成（七）　門司区篇

中村修身

はじめに

これまでに北九州市内の金石文の紹介を六回（若松区、八幡西区、八幡東区、小倉北区、小倉南区）行ってきた。その続きとして門司区所在の金石文の紹介をおこなう。

門司区の金石文は吉永愚山、中山主善両氏によりまとめられた『門司金石記年誌』がある。今回所在地については大変役に立った。しかし、時代の流れとともにその所在が確認できないものも多々あり、銘文は『門司金石記念誌』を参考にした物件がある。

紹介にあたっては、資料は基本的に年代順とした。原則として明治元年以降は収録しなかった。物件ごとに、銘文の書かれている物件、その現所在地、銘の書かれている部分そして銘文の順に記し、各物件の紹介の後にそれぞれに対する雑記を加えた。

多くの資料で判読に難渋したが、今後の歴史研究の一助となればと思い史学論叢に発表する場の提供をお願いし、ここに発表するものである。発表の場を与えていただいた別府大学の諸先生、いろいろと情報を提供いただいたみなさん、貴重な御物や文化財を快く触れさせていただいた関係者の方々に深く感謝の意を表したい。

物件の紹介

1　墓　門司区旧門司一丁目10　薬子院宗聖禅寺墓地

右面　大永六丙午七月八日　柴崎正明

正面　明徳院寿正居士

弘道院正学居士

左面　天文十八己酉年四月十二日　柴崎明治

雑記　当墓は、大永、天文期の様式ではなく明治年間に古い墓を合祀したのであろうか。これを継いだ墓が平成十年代に造られ、当墓が本来あった位置に建てられた。そこから約六メートル離れた所に当墓は置かれている。再建した墓には左記の銘文が刻まれている。

右面　大永六丙戌七月八日　初代柴崎正明

正面　明徳院寿正居士

弘道院正学居士

左面

天文十八己酉年四月十二日　二代柴崎明治

2　墓　門司区旧門司一丁目10　薬子院宗聖禅寺墓地

正面

普賢院家昌居士

裏面

天正二甲戌年十二月十二日　柴崎采女

雑記　自然石の墓で、天正期の墓の様式ではない。明治年間に建てられたものと思われる。

3　墓　門司区旧門司一丁目10　薬子院宗聖禅寺墓地

右面

天正十九年辛卯六月七日帰幽

正面

柴崎峯之丞
柴崎晴右衛門　之墓

左面

慶長十三年戊申四月十日帰幽

雑記　天正、慶長期の墓の様式ではない。明治年間に昔の人を合祀したのであろうか。

4　宝篋印塔（一対）　門司区吉志新町四丁目　共同墓地

右側宝篋印塔正面

□□阿□陀□

裏面

□□大姉

門司安右衛門
□之者也
奉
孝子敬白
于時元□七辛酉三月廿七日

左側宝篋印塔正面

南無阿弥陀□

裏面

□□大□

門司安右衛門
奉　建之者也
孝子敬白
于時元和七辛酉三月廿七日

雑記　平成十年四月団地造成にともない五輪山から当地に移された。夫婦の墓と紹介されているが、銘文からは同一人物である。二基とも一石造の宝篋印塔である。形式、大きさ、銘ともに同じ墓を二基祀ることはほとんどありえない。もし、墓と関連するなら墓の四至を示す石標とみる方が自然である。いずれにしても今後の研究を待ちたい。

5　墓　門司区旧門司一丁目10　薬子院宗聖禅寺墓地

右面

寛永十四丁丑年八月廿一日

正面

壽照院釋周愍居士

左面
柴崎四郎左衛門

雑記　墓の形態は寛永期ではないので、後世に再建されたと思われる。

6　静泰院殿秋月清賢大禅定尼墓　門司区柳町四丁目　静泰院跡
明暦三年
南無妙法蓮華経　静泰院殿秋月清賢大禅定尼墓
七月十六日

7　覺林素□禅定門墓　門司区柳町四丁目　静泰院跡
寛文六丙午霜月廿八日
覺林素□禅定門墓
青永思□

8　小笠原出雲守長俊墓　門司区柳町四丁目　静泰院跡
万治元戊戌暦四月廿六日
静泰院殿義傑翁信大居士
従五位下小笠原出雲守源長俊

雑記　墓は昭和三十年代の区画整理事業の際、当地から小倉北区寿山町の広寿山福聚寺に移された。小笠原出雲守長俊は小倉小笠原藩初代藩主小笠原忠眞の弟。忠眞より大里柳に隠居地を賜る。一帯を出雲山という。

9　釈迦牟尼如来　門司区伊川　平山釈迦堂

背面
于時寛文十貳季是新
本師釋迦牟尼如来
爲平山中奉造辻像也
願村繁昌子孫繁栄
佛師筑前国遠賀郡糠塚村
川上平五郎

雑記　地元では当仏を薬師如来といっている。なぜか。

10　灯塔（一対）　門司区大里戸ノ上四丁目4　戸上神社
右側塔
延宝三乙卯三月念七日
現海之明月□□□皿□□□□
安立之松風□六酉没□□□琴
月本齋貫翁一以居士
左側塔
月本齋貫翁一以居士
内裏之朝霊映日錦□□乞
□寺之暁□行月惣□□乞
延宝三乙卯三月念七日

雑記　墓前の灯塔であろうか。原位置を離れ、戸上神社の植え込みの中に不規則に建てられている。

11　鳥居　門司区恒見　八幡神社

右柱

元禄六年酉九月九日

正面額

〔無銘〕

左柱

企救郡恒見浦氏子中

12　観世音菩薩　門司区大里本町一丁目8

寶永六己丑極月四日

松林浄栢信士

小倉紀州国屋　姓　石原　字　八左衛門

13　戸上神社鳥居　門司区大里戸ノ上四丁目4　戸上神社

右柱

豊前州企救郡柳邑戸上山

大権現霊祠未有華表頃筑後久留米城主有馬玄蕃頭船屋敷衆募縁戮力造鳥居一基奉立

〔この二行、原文は一行〕

御宝前所祈者

正面額

戸上神社

左面

公庭清謐私舎康寧事官獲和平爲吏没過失千船遂意運用無阻無□

万種随心出入常安常楽神力冥護諸縁吉祥

時正徳元年辛卯六月吉日謹識

願主筑後久留米船屋敷衆等立

14　鳥居　門司区田野浦二丁目　春日神社

右柱

春日和光神明不測奉建立華表豊前州田浦

正面額

〔無銘〕

左柱

正徳三癸己歳五月吉辰　丹後屋源吉益田貞邦敬白

15　伏鐘　門司区旧門司一丁目10　薬子院宗聖禅寺

豊前国金救郡葛原村薬師堂施主即往室町住出羽大椽宗味作

享保十二年未九月吉日

雑記　同院には当鐘はない。住職は、第二次世界大戦の時供出した鐘のことと思うと。銘文は『門司金石記年誌』を写した。文中「金救郡」は「企救郡」の誤植であろう。同書によると、当鐘は楠原踊興行の際に用いられたという。

16　南無阿弥陀佛供養塔　門司区大里本町一丁目8

柱正面

南無阿弥陀佛供養塔

左面

願主辻太左衛門宗真

裏面

法華経一字一石日本辺国六十六部
閑総書之
右面
寛保三癸亥年十二月四日
台石正面
永代目牌〔横書〕

17　祇園社鳥居　門司区大里本町二丁目1　八坂神社
右柱
寛延三庚午歳六月吉祥日
正面額
祇園社
左柱
□□五穀成□

18　水盤　門司区旧門司一丁目　甲宗八幡神社
正面
宝暦八戊年
奉納
寅八月吉日
左面
諸願成就
米屋
其□

雑記　境内に放置されている。

19　肥前墓　門司区田野浦二丁目　浄土宗真楽寺墓地
正面
白石総左衛門　白石久右衛　松林金右衛門
五郎右衛門　千之丞　興田兵衛
福島彌五右衛門　福島道右衛門　水田忠左衛門
龍左衛門　門左衛門　新六
庄右衛門　牛松　文右衛門
傳左衛門
溺死海會塔
久助　総之丞　八兵衛
岸川清右衛門　北村勘左衛門　田中八十
次右衛門　久兵衛　茂右衛門
野田右衛門　師川利兵衛　川久保甚太郎
羽右衛門　新三郎　勝右衛門
左面
溺死海會塔誌
宝暦壬午秋七月　吾肥藩船十有一艘　将軍渉大洋而迎長崎知県於大阪
即発自伊万里港　於是八月八日行到小倉「東田野浦　則忽焉回風大作波
浪起立　日色膠晦　他州舟之小者　不幸而卒然不見多矣　然吾肥藩船甚
而巨也「且吾船人及与従長門来傭作操船者若干人　固善於操桿　力究伎
尚不得輒禦風濤　則潮水漏溢　頃刻而溺死　者二十「有一人　即長門人
也　且吾肥人三十有二人　同時溺死　于時小倉津吏及本浦人　各放小舟
而得諸死尸□於　溺処「於是以肥人死尸合葬于本浦真楽寺　□□長門人
尸並皆送之葬于　〔この面五行。「は改行頭。〕

右面

其梓里焉　独有小吏一人姓横尾氏者　則得尸火化収骨以帰葬于肥
肥藩主藤侯　聞之駭然　不堪其憂　日「若是真可憐愍者也　趣其明年
乃始命司日　於其葬処造立石墳一基　又日鐶中金若千両入寺　以歳時
祭之　普「願済到菩薩域矣　有司謹此奉命　乃将立塔勒石　則謀諸甘露
元晧　不佞元晧乃与喟然而嘆日　晧聞之古之聖賢如「禹稷者　皆思天下
有溺者饑之也　聖賢以仁治民　是以如是其急也　今吾藤侯　其於憂民不
亦至「乎可書也□□　爲海會塔誌　〔右面五行。「は改行頭。〕
宝暦癸未歳季夏之月肥前佐嘉城北甘露元晧　大潮撰

雑記　当墓の右面と左面は風化が進み読みとれない箇所があったので、銘文の一部を『門司金石年誌』で補った。

20　竒峰硯雲番主之墓　門司区旧門司一丁目　真光寺墓地

右面

先生者倉城英産而受業於于香月山國手門矣
元文丁己卜居於于此慰醫響如應遠近浴其
洋焉門従四五輩常随習也宝暦十三癸未六月
廿七日無病卒門弟子敬建
辞世　白雲□子□卯月や抜打や

正面

竒峰硯雲番主之墓

21　水盤　門司区畑　豊前坊山　玉泉寺豊前坊上宮

明和二乙酉二月
奉寄進
小倉講中

22　灯塔片　門司区畑　豊前坊山　玉泉寺豊前坊上宮

明和二
奉献　御宝前
乙酉三月吉日
八木屋
十郎左衛門

雑記　痛みが酷く読み取れない箇所があったので、銘文の一部を『門司金石記年誌』で補った。

23　灯塔（一対）　門司区畑　豊前坊山　玉泉寺豊前坊上宮

右側塔右面

明和五午九月吉日

正面

奉寄進

左面

魚　屋常蔵
小倉世話　大黒屋伴作
同　清蔵

左側塔右面

大黒屋伴作
小倉世話　同　清蔵

魚　屋常蔵

正面
奉寄進
左面
明和五午九月吉日

24　灯塔（一対）　門司区田野浦二丁目　春日神社

右塔正面
奉献　鈴木忠七
裏面
安永二癸巳年
左塔正面
奉献　鈴木忠七
裏面
九月吉日

25　鳥居　門司区大積　天疫神社

右柱
奉寄進
正面額
〔無銘〕
左柱
安永三甲午八月吉日

26　多宝塔　門司区猿喰（裸島）　厳島神社

右面
　　觀了童子
延命地蔵菩薩
　　智現童子
正面
法華經一石一字塔
左面
奉拜此多寶塔者
現世安穏後生善處
裏面
安永五丙戌仲呂
辻宗坊謹書焉

雑記　猿喰新田開作にともなって祀られたと、聞く。

27　水盤　門司区柳町四丁目　静泰院跡

正面
奉寄進
　網屋九良七
裏面
安永七戊戌
　　正月吉日

28　灯塔　門司区畑　豊前坊山　玉泉寺豊前坊上宮

右面

安永八亥年
正面
御神燈
左面
六月吉日
裏面
新井氏

29　石段　門司区畑　豊前坊山　玉泉寺豊前坊上宮
右側中段奥石柱
安永八年
亥七月吉日
左側中段奥石柱
願主
柳井氏
左側中段手前石柱
新屋幸助

30　禁牌石　門司区畑　水野文化園の敷地
右面
安永九年子四月吉日
正面
不許葷酒入山門
左面
玉泉十七代巨岳僧誌焉

雑記　元位置は玉泉寺山門にあったと思われる。『門司金石記年誌』に所在地を玉泉寺としている禁牌石はこれと思われる。

31　禁牌石　門司区畑　玉泉寺参道端
右面
安永九年子四月吉日
正面
不許葷酒入山門
左面
玉泉十七代巨岳僧誌焉

雑記　水野文化園の敷地の禁牌石と銘文は同じである。

32　灯塔（一対）門司区大字門司三四九二番地　和布刈神社境内
右側正面
奉寄進
左面
天明三癸卯十一月
裏面
施主
柳井吉左衛門
左側正面
奉寄進
右面
天明三癸卯十一月

裏面
施主
柳井吉左衛門

雑記　灯塔は海に向かって拝むように建てられている。

33　無縁塔　門司区大里本町一丁目8

正面
無縁塔

左面
無量壽経
奉書□無量壽経
阿彌陀經

裏面
□□千拾六□□正□

右面
天明四甲辰歳
□月十六□日

34　徳譽本心道立居士墓　門司区旧門司一丁目　真光寺

一面
天明五己年四月初三日

二面　台石正面（二面下）
三部妙典一石一字　永代
日牌

三面
徳譽本心道立居士

四面
〔無銘〕

五面
柳井甚作

雑記　六角柱であり、墓としては特異な型である。一石一字塔とすべきか。

35　鳥居　門司区白野江三丁目25　御祖神社

右柱
奉寄進

正面額
〔無銘〕

左柱
天明六午五月吉日　氏子中

雑記　左柱だけ石質が違う。

36　円柱（残片）　門司区大里戸ノ上四丁目　満隆寺

天明丙午十二月
奉寄進
願主同人

37　鳥居　門司区奥田四丁目9　淡島神社

右柱
同明天日護法五社神
天明七丁未歳五月中浣建之
正面額
〔無銘〕
左柱
垂跡山赴感一乾坤
□□淵海五郎七勘

38　灯塔（一対）　門司区田野浦二丁目　春日神社
右塔右面
寛政元年
正面
奉寄進
左面
願主　三原屋九四良
左塔右面
願主　三原屋九四良
正面
奉寄進
左面
酉六月吉日

39　大乗妙典塔　門司区柳町四丁目　静泰院跡
右面
寛政二庚戌歳二月仲浣建之
正面
大乗妙典塔
某甲氏謹請龍山一會清衆毎
一石題一字奉書法華經一部以爲
短月妙影信女追薦冥福云彌

雑記　本来の位置から移動している。

40　地蔵尊（大乗妙典塔）　門司区柳町四丁目　静泰院跡
台座右面
寛政三辛亥歳霜月吉日
正面
四海安寧
奉納大乗妙典　六十六部
日本廻国
五穀豊登
左面
豊前企救郡赤坂邑
行者中村新七美規
妻　利津
裏面
唯空理心童子
暁空遊夢童女
智　玉　童子

石工　八十郎

雑記　銘文は一部『門司金石記年誌』を参考とした。

41　小鐘　門司区馬寄　賀善寺

企救郡馬寄村賀善寺　寛政四壬子四国同行十七人志之

雑記　現物および賀善寺の確認ができなかったので、銘文は『門司金石記年誌』を写した。

42　地蔵尊（三界萬霊塔）　門司区柳町四丁目　静泰院跡

台座正面

寛政六甲寅歳十二月穀旦

三界萬霊

願主　慈門建之

裏面

石工赤間関松尾伊兵衛精造

雑記　平成24年の時点で現物の再確認ができなかったので、銘文は『門司金石記年誌』で補った。

43　寶積院最譽賢良勝善居士　門司区猿喰岡崎　厳島神社

正面

寶積院最譽賢良勝善居士

裏面

寛政十一未年八月三日

柳井甚五郎

雑記　同社にはある（76）と同じ石造物廃材を材料としている。当墓は柳井賢達の墓であり、柳井甚五郎は当供養墓を建てた人物である。

44　石祠　門司区大里戸ノ上1　御所神社

左面

文化二丑五月立之

45　灯塔（一対）　門司区大里本町二丁目1　八坂神社

右塔右面

石原宗祐

正面

奉寄進

左面

文化二丑年八月吉日

左塔右面

文化二丑年八月吉日

正面

奉寄進

左面

石原宗祐

46　手洗盤　門司区大里戸ノ上四丁目4　戸上神社

文化二乙丑歳
奉願解
九月日
柳村中

47　開田院墓　門司区猿喰新地　石原氏屋敷内

空輪正面　風輪正面　火輪正面　水輪正面　地輪正面

空　風　火　水　地

開田院宗祐居士

石原小左衛門宗祐

地輪左面

寶暦七丁丑歳
翁四十八齢蒙
官許而於猿喰
村開田若干畝
興家徳閲世寶
九十有七年也

裏面

不肖続子謹誌
大略以使後世
小民不忘其本
伝爾

右面

文化三内寅歳
六月初九日終

雑記　石原宗祐は猿喰新田など小笠原藩の新田開作に尽力を尽くした人物である。

48　福間松碑　門司区大里本町一丁目8　西生寺

正面

福間松

左面

福間松在豊大里濱考其所以得名福間元明君者藝人清和帝之裔也其光「邑于紀福万氏焉後万更間君年十六始仕洞春公爲贄御也勇捷善戦永「禄癸亥雲白鹿城之役藝兵穿爲地道城中亦地横截之君先入其中槍枝「掛炬照遂而前忽見一人容貌瑰偉自称見白久盛激戦君進交槍刺而斃焉「於是衆乗勝前城陥已巳周茶臼山之役君騎先亂川斬大将大内輝弘天正「丙子織田氏兵圍摂本願寺中食之天樹公命士轉漕救之敵口次拒之君

〔この面六行。「は行頭。〕

裏面

□入敵舩撃殺數十百人遂得輪焉是歳備阿部川拘山中鹿介君素善游引「彼深處殪焉丙戌豊王征代九州天樹公發兵援之陣于長赤馬関越八月二「十六日命某氏者先渡于豊君監其軍在前舩達于大里濱敵之伏起某氏者「驚遽而逃君奮然以爲此吾效節授命日也上濱挑戦有一勇士相槍接「君鈎而倒之既而扶縦之以賈餘勇無敢近者忽中鳥銃終焉年四十八従士「瘞骸種松以爲表矣土人因呼日福間松云君従初臨戦至此功之大者十三「所復皆勁敵事蹟詳于簡策天明乙丑二百年祀八世孫正幸君来吊於掇

〔この面六行。「は行頭。〕

右面

松子数枚歸後建祠第中藏之爲主追謚楨幹明神其嗣政方君今此樹石略

誌先勲又政幸君之志文化丙寅秋月八月
長門山田時文拝選
福間家臣佐々木之清謹書

雑記　本来の位置は大里町の松林の中と聞く。

49　水盤　門司区大里戸ノ上一　御所神社

奉寄進
文化三寅十一月吉日
柳村中

50　灯塔（一対）　門司区大里戸ノ上四丁目4　戸上神社

右側塔正面
奉寄進
裏面
網屋九郎七
左側塔左面
文化五戊　辰三月□日
正面
奉寄進
裏面
網屋九郎七

51　鳥居　門司区畑　豊前坊下宮（玉泉寺の裏）

右柱
神徳是馨士庶輻輳而瞻仰月愈盛
玉泉禅寺見住巴陵代
正面額
〔無銘〕
左柱
霊鑑不味廸逆影闇而勸懲日維新
文化五戊辰八月吉日

雑記　当時、神仏習合であったことがわかる。

52　真鍮製花瓶（一対）　門司区白野江山中観音堂

右側〔把手が一欠損〕
高田屋嘉蔵
文化九壬申四月
左側
高田屋嘉兵衛
文化九壬申四月

雑記　いつの間にか観音堂の表札はなくなり、倉庫の表示となっている。銘文の再確認はできなかった。阿路国の海運業者高田屋嘉兵衛が寄進と聞く。嘉兵衛は国産の藍玉を門司にも販売していたと。

53　水盤　門司区白野江山中　観音堂

文化十四丑仲春吉日

防小松
世話人
川嵜屋三蔵
米屋忠兵衛

雑記　民家に仏具などはあるが、観音堂の表札はない。

54　柳井甚作墓　門司区猿喰岡崎　厳島神社

正面
開元院徳誉本心道立居士

左面
柳井甚作

裏面
翁諱達賢號甚作宗祐翁之弟爲人謹格勇於敢爲
有乃兄之風宝暦丁丑請
官各開田若干頃於此其功可謂偉矣天明乙巳
四月三日卒行六十二
銘曰
埧潮墾田　化瘠作良
其績茂焉　其福無量
況乃棣萼　雙美聯芳
貽厥之勤　永誓不忘
文化丁丑夏四月　孫賢孝謹述

雑記　当墓は供養墓である。『門司金石記年誌』は門司区猿喰新地（柳井氏宅）にあるとしている。本来の墓は旧門司一丁目真光寺にあると聞くも、同寺には見当たらない。銘文は『門司金石記年誌』で補った。裏面一行目「達賢」は「賢達」の彫間違いと思われる。

55　灯塔（一対）　門司区田野浦二丁目　春日神社

右塔正面
奉献

左面
文化十四丁丑九月吉日

左塔正面
奉献

裏面
願主
丹後屋新四郎

右面
文化十四丁丑九月吉日

56　水盤　門司区大里戸ノ上一丁目11　御所神社

奉寄進
文政元寅十一月吉日
柳村中

57　灯塔（一対）　門司区大字門司三四九二番地　和布刈神社

右側塔左面
御般方

正面
奉献神燈一雙
右面
海路安寧之祝
裏面
文政二歳己卯
仲冬之吉
左側塔右面
御般方
正面
奉献神燈一雙
左面
海路安寧之祝
裏面
文政二歳己卯
仲冬之吉

雑記　灯塔は海に向かって拝むように建てられている。

58　灯塔　門司区白野江山中　観音堂
右面
文政二卯二月吉日
正面
奉納
左面
願主丑歳男

雑記　いつの間にか観音堂の表札はなくなり、倉庫の表示となっている。銘文の再確認はできなかった。

59　永昌院高嶽芦渓居士墓　門司区柳町四丁目　静泰院跡
右面
文政五壬午年八月二十日
正面
永昌院高嶽芦渓居士墓
左面
大里裏長崎出張所詰中卒
井原甚太夫辰知

60　鳥居　門司区旧門司一丁目　甲宗八幡神社
右柱
奉獻　為子孫繁栄　願主
川端
正面額
〔無銘〕
左柱
于時文政八歳正月吉旦

61　鳥居　門司区元清滝1　清滝神社
右柱

稲荷大明神瑞廣前
正面額
〔無銘〕
左柱
文政八年乙酉春三月穀旦
寄附中務烝源義等

62　瑞垣　門司区大里戸ノ上四丁目4　戸上神社
右側欄干右面
文政十丁亥年
九月吉祥日
正面
奉寄進
左面
石槽　西新町　本町　若中
左側欄干右面
玉垣　大　里　網屋治右門
世話方　飴屋平兵ヱ
帯屋平治良
疊屋　勘蔵
正面
奉寄進
左面
同世話方　大屋庄兵ヱ
網屋　力蔵
恒見屋榮蔵
當山別当法印宣代

63　大乗妙典塔　門司区大里戸ノ上四丁目4　戸上神社
台石右面
文政十一戊子歳孟夏吉日造立
正面
一天泰平
奉納大乗妙典日本廻國
五穀豊登
左面
願主當邑　定松壽七守義
妻　武良
現住　別當法印實榮
一段下台石裏面
石工　河村冨蔵高秀

雑期　台石の上には大日如来が座している。『門司金石記念誌』は地蔵尊坐像としている。

64　水盤　門司区柄杓田　光照寺
右面
文正文十一戊子年

二月日

正面
奉寄進
若講中〔この行横書〕

65　鳥居　門司区吉志　天疫神社

右柱
奉寄進　当村中

正面額
〔無銘〕

左柱
當村庄屋小田平次郎
文政十三寅年三月吉祥日

66　猿田彦大神　門司区奥田四丁目9　旧道傍

右面
天保五午九月　願主
甚杢彌善〔右文下横書き〕

正面
猿田彦大神

雑記　『門司金石記年誌』に淡島神社所在として紹介されている猿田彦大神は当猿田彦大神であろう。

67　三界萬霊　門司区奥田四丁目9　淡島神社脇のお堂

右面
天保七年　俗名
申五月二日　國吉

正面
三界萬霊

左面
順□□浄□信士

雑記　上に地蔵尊が祭られている。堂守は淡島神社という、神仏習合の名残と思われる。

68　狛犬（一対）　門司区田野浦二丁目　春日神社

右狛犬正面
奉献

裏面
天保九戌戌年
九月吉日
願主
益田久四郎

雑記　左側狛犬にも同銘が彫られている。

69　住吉社鳥居　門司区新開1　住吉神社

右柱
御武運長久

正面額
住吉社
左柱
五穀成就
天保九戊戌歳十一月吉日

70　灯塔（一対）　門司区新開1　住吉神社

右側塔左面
天保九年戊戌歳十一月
正面
清輝常照
右面
加藤三兵衛信大
裏面
富野次郎左衛門富享
規久田徳左衛門茂高
左側塔右面
天保九年戊戌歳十一月
正面
霊光長明
左面
加藤三兵衛信大
裏面
富野次郎左衛門富享
規久田徳左衛門茂高

71　水盤　門司区新開1　住吉神社

右面
金子正武　喜久田安宏　西村守義　岩崎直理
神吉雅嘉　玉沢安茂　稲多義芳　上原紀貞
永野光躬　高山久貞　〔原文、人名は横一列〕
正面
奉献
左面
久野当榮　米村恭邦　丹村憲芳　今井信就
荒瀬寿博　安藤隆容　久保国房　小住安永
酒井治親　後藤元享　〔原文、人名は横一列〕
裏面
天保十年歳次己亥孟夏令日

72　灯塔（一対）　門司区新開1　住吉神社

右側塔右面
天保十年己亥仲夏
正面
奉献
左面
御武運長久　五穀成就
裏面
亀屋利兵衛満慎
綿屋勝兵衛茂行
左側塔左面

天保十年己亥仲夏
正面
奉献
右面
国家安全　萬民快楽
裏面
亀屋利兵衛満慎
綿屋勝兵衛茂行

73　灯塔（一対）　門司区新開1　住吉神社
右側塔正面
奉献
左面
田川郡
左面台石
上野助右衛門則勝　金田四郎兵衛安次　猪膝平四郎武□
伊田清兵衛蔵□　添田七左衛門政明　〔原文、人名横一列〕
裏面
天保十年己亥八月

雑記　もう一基も同じ銘文が刻まれている。

74　灯塔（一対）　門司区新開1　住吉神社
右側塔右面
天保十己亥歳
正面
献燈
裏面
大庭屋次助右衛門　高池三郎衛　天王寺屋作太郎　〔原文、人名横一列〕
左側塔正面
献燈
左面
十一月吉祥日
裏面
高池八左衛門　餝屋六兵衛　播磨屋仁兵衛　〔原文、人名横一列〕

75　報鐘　門司区白野江中山　観音堂
天保十四年卯七月吉日
冶工　田野浦町　金屋宗左衛門
世話人　同　菊屋新六
重松屋与七
桃燈屋清吉
松蔵
楠屋庄司
企救郡山中村
観世音菩薩
田野浦町中
田野浦村中

楠原　村中
大刀浦村中
鍛冶屋店女中
田野浦村女中
同村　岡田屋

志
施
主

万吉取次若娘中
金具一切同町鍛冶屋藤吉

雑記　いつの間にか観音堂の表札はなくなり、倉庫の表示となっている。銘文の再確認はできなかった。銘文は『門司金石記年誌』で補った。

76　清明院塁譽徳翁還達居士　門司区猿喰岡崎　厳島神社

正面
清明院塁譽徳翁還達居士

裏面
天保十五年辰年正月廿三日
柳井甚五郎

雑記　同社にはある（43）と同じ石造物廃材を材料としている。柳井甚五郎は当供養墓を建てた人物である。

77　五徳　門司区大積　大積神楽保存会

その一本
天保十五年辰九月吉祥旦

その二本
奉寄進豊前大積村若者中

その三本
田ノ浦鍛冶屋幸右衛門作

雑記　大積神楽の湯立神楽の道具である。長さ百八十センチメートルの鉄棒三本からなる。現在北九州市立自然史歴史博物館に寄託保管されている。

78　鳥居　門司区畑　日合神社

右柱
神之吊矣詒爾多福
村中

正面額
〔無銘〕

左柱
民之質矣冏飲食
弘化三丙午季八月吉祥

雑記　『門司金石記年誌』は貴船社となっている。

79　清虚墓　門司区白野江青浜　墓地

右面
嘉永三戌十二月十六日

正面
釋帰真居士

左面
清虚老

雑記　海上交通の安全を願って、死去の直前まで十三年間部崎山に火焚をした人物の墓。極めて小さい墓である。

80　灯塔（一対）門司区門司三四九二番地 和布刈神社

右側塔正面
奉　速戸大明神寶前石燈臺両基
献
右面
従四位行侍従對馬守平義和朝臣
裏面
嘉永五壬子年六月吉日
左側塔右面
従四位行侍従對馬守平義和朝臣
正面
奉　速戸大明神寶前石燈臺両基
献
裏面
嘉永五壬子年六月吉日

雑記　灯塔は海に向かって拝むように建てられている。

81　灯塔（一対）門司区田野浦二丁目　春日神社

右塔右面
願主　城井彦右衛門
正面
奉献
左面
安政元申寅八月吉日

雑記　左塔も同銘文が彫られている。

82　石碑　門司区旧門司一丁目　筆立山

安政二次乙卯年
舛富安右エ門
再営之
卯月吉旦

雑記　『門司金石年誌』に同文が祠に彫られていると報告されている。当品は祠の残片であろうか。

83　灯塔柱片　門司区旧門司一丁目　甲宗八幡神社

右面
八幡丸市五郎
正面
献　海上安全
裏面
安政四丁巳春

雑記　同じ銘文の柱片が二基あり、ともに境内に放置されている。

84　灯塔（一対）　門司区大字柄杓田　光照寺

右側塔右面
于時安政五午九月日

正面
獻燈

裏面
施　廣瀬儀二郎
主

左側塔正面
獻燈

裏面
于時安政五午九月日

左側塔台石裏面
施主〔この行左人名上横書き〕
中屋庄三郎　濱屋市右衛門　関屋勇太郎　中津屋□□衛
萬屋兵菊蔵　□□屋三次郎　萬屋鶴吉　久屋三九郎
魚屋久叅　〔原文・人名横一列〕

85　鳥居　門司区元清滝1　清滝神社

右柱
奉寄進
波多野次男
加野　次郎
額奉納　河野　安加
吉松　憲治
福田　香
鮫島　榮

正面額
貴布禰神社〔造り替え〕

左柱
安政九寅六月吉日
昭和三十八年十一月吉日移築〔追刻〕

雑記　昭和三十八年十一月に額を取替え、移築と思われる。

86　鳥居　門司区大字大里（戸ノ上山頂）戸上社上宮

右柱
奉寄進　願主渡辺祐左エ門
石工辻□左衛門

正面額
〔無銘〕

左柱
文久二戌三月吉日
上ケ方氏子中

雑記　石工の辻は行橋市沓尾の石工である。坊跡が十数ヶ所ある。

87　灯塔（一対）　門司区田野浦二丁目　春日神社

右側塔右面
當村　長田久右衛門　四十二才
正面
奉献
左面
文久四申子正月吉日
左側塔右面
文久四申子正月吉日
正面
奉献
左面
長田須吉　十才

雑記　當村とは田野浦。久右衛門と須吉は親子か。

補訂

北九州市内の金石文集成は今回門司区の紹介で市内を一巡したが、未収録の金石文は多数ある。それは折を見ておこなえればと思う。ここでは、六回に亘り紹介した金石文の訂正と、この期間にご教示いただいた金石文のいくつかを補足という形で紹介したい。訂正については、区の旧番号に枝番（－2）を用い、新たな紹介は新たに番号を付けた。

若松区

76　一字一石經塔　若松区蜑住　島郷四国一四番札所

右面
願主
中山吉蔵
正面
明和五戊　子
大乗妙典一部一字一石
九月吉日

八幡西区

7－2　黒田修理正基室墓　八幡西区穴生二丁目5　浄土宗弘善寺

「正面
應時無量尊　動容發欣笑
口出無数光　遍照十方國
元和四年戊午暦
㊞
覺修院殿享譽凉心妙允大姉尊儀
如来知慧海　深廣无涯底
二乗非所測　唯佛独明了
四月四日
」

雑記　先に紹介した当墓の銘文は一部剥落して判読が難しい部分があったが、私なりの判読で収録した。それをご覧いただいた弘善寺ご住職より弘善寺所蔵『無量壽經』に記載の墓碑銘と当墓銘文でご指摘をいただいた正面銘文をここに記載させていただくこととした。

77－2　彦六塚　八幡西区楠橋　彦六堤防

正面

□永元□　八日

彦六塚

□□家

裏面

村中

台座

当地区は江戸末期まで遠賀川氾濫
により三年に一度歩度しか米収穫ができない地域であった
天保年間庄屋の伊藤彦六はこの地区
を美田化するため私財を投じ数年がかり
で遠賀川近くの堀川横一八〇〇メートル
の堤防を築いた
この彦六塚はその偉業を偲び地元民
により嘉永元年ゆかりの堤防に建立され
ていたが　故あって大正十五年一月近くの
廣幡八幡宮に遷座し今日にいたった
この度歴史的史実を明確にするため
地元民の強い要望により再度彦六堤防
ゆかりのこの地に移したものである

昭和五十五年八月吉日

雑記　伊藤彦六は岩瀬村に生まれ。当碑は砂岩をもちいており、全面剥落が酷い。久留米市在住伊藤家の『家記第八世彦六　二』に描かれている彦六塚の絵には「嘉永元年申七月十八日　彦六塚　詳記藏家」と記している。昭和五十五年の再建に携わった人々の芳名は略した。なお、大正十五年に建てられた伊藤彦六顕彰碑が楠橋の廣幡神社境内の横にある。

110－2　筆塚　八幡西区岡田町一丁目29　長尾廟旧藏

老こそいとゝ名残
おも飛や流生盡
安政五戊午歳九月十四日

111　時枝重記夫妻墓案内　八幡西区東鳴水五丁目　貴船神社

正面

古墳二〔左五行上に横書〕

南　時枝重記

慶長二年拾月九日

北　同室

同年月廿日

安永未初夏日彫之

裏面

〔確認できず〕

雑記　時枝重記子孫時枝常春が祖先の地を訪ねた折、鳴水に在る重記等を祭る墓所を参拝し建てた供養塔である。当供養塔や時枝氏に関する墓は元来貴船神社の南、葉山にあったという。なお、当案内は『郷土八幡

第四号』でも紹介しておいた。

112　時枝重記供養塔　八幡西区東鳴水五丁目　貴船神社

右面
安政三年辰十月九日
依于弐百五十年回九
代孫時枝中鎮遠祭之

正面
松嶽院殿霊前

裏面
文化三年寅十月九日依于
二百年回重記公八代之
嫡孫時枝清七鎮安建之

八幡東区

34　据鐘　八幡西区山路一丁目4　円通庵

安永申年四月初八月
豊前州企救郡山市邑圓通庵汁物寳隆改焉

雑記　現物の確認ができないので、所在地、銘文は『国境のまち高槻』によった。八幡東区山路の当該地は江戸時代企救郡である。

35　鰐口　八幡西区山路一丁目4　円通庵

奉掛観世音　豊前國企救郡山市村　施主老若
元禄十丁丑年三月十七日　粉河丹後守作

雑記　八幡東区山路の当該地は江戸時代企救郡である。山市村は山路村のことであろうか。ご教示を乞う。

小倉南区

163　猿田彦大神　小倉南区長野本町一丁目　道端

文化七年
猿田彦大神
午　十一月日